

秋の保育園でほっこり交流会(*^-^*)

10月26日(水) 飛鳥ともしび苑グループホームの入居者様と、ともしび保育園の5歳児クラスで交流会がありました! (^-^)
入居者様からは手作りカレンダーやバルーンアートのプレゼント、5歳児さんからは特大手作りメッセージカードのプレゼント(◡>◡<◡)。♡
短い時間でしたが、温かいひとときとなりました



3人の入居者様がたくさんのプレゼントを持って来てくれました



子ども達は元気いっぱいヒップホップダンスで歓迎(^-^)



入居者様から手作りカレンダーとバルーンアートをたくさんいただきました!



画用紙いっぱいの特大手作りメッセージカード



子ども達からおばあちゃんにプレゼント☆
いつまでも元気でいてね(^-^)



また絶対に会おうね!
再会を誓い合いました(^-^)



フェルトの手作りカレンダー



日にち、曜日、お天気を、毎日着せ替え(^-^)
たくさんのおマスコットも全て入居者様が作られました!



職員インタビューコーナー

福祉の世界に入ったきっかけ

一番のきっかけは、19歳の時に統合失調症患者の女の子が閉鎖病棟で書いた詩を読んで感動を覚え、こういう詩を書く方はどういう人なのか、どんな背景があるのか関心を抱いたことです。心理学の道へ進むことも考えたのですが、統合失調症患者の方と直接関わることと心理学とは結び付かないこともあり、若い時には直接関わられる作業所で働きました。病院の精神科で医療ソーシャルワーカーとして従事したいという想いがあったのですが当時は超就職氷河期で、就職すること自体容易ではない社会情勢でしたので、繋がる事はできませんでした。

実際に福祉の仕事に就いて

平成17年にともしび福祉会に入職しましたが、「深い仕事だな」と思っています。介護保険がはじまって22年、私はその直後からケアマネをしてきた中で、「制度が人に寄っていく」のではなく、その逆になっていくことにギャップを感じました。この地域は、認知症のお一人暮らしの方が多く、朝・夕と2回ヘルパーが訪問してお喋りしつつご本人が口にしやすい食事を提供する余裕がかつてはありました。お食事中、ヘルパーは別の家事をして、食べ終わった食器を片付けて帰るといった生活支援の時間が1時間半あったのに、それが今は45分になってしまったことで調理時間を削るしかなく、お弁当を取り入れざるを得ない状況になりました。味気がなくなってしまい、本来の生活支援との隔たりを感じます。

人員不足という課題について

私たちの仕事が、社会的にもっと認められるように声を上げていかなければ、と思います。ケアマネの平均年齢は50歳で、これからを担う30代が居ない。ヘルパーも65歳を超えた方が多い。一方で、訪問看護師として地域で働く看護師はすごく増えたと思います。若い優秀な方は周囲に沢山居ます。ケアマネやヘルパーの社会的な役割が認められたいな、と思っています。

取り入れたいこと

私が入職した頃は、補助があったからですが、無料でお風呂に入れたり食事が出来たことで地域の方が多く集まる施設でした。本館2階で囲碁、将棋、麻雀、卓球を楽しむこともできていたんです(^-^)
コロナが収まったら、かつてカラオケや運動会、初釜といったイベントで地域の方と密に関わっていたように、特養ともしびも飛鳥ともしび苑も、何か企画できたらな、と思っています。



飛鳥ともしび苑 地域包括支援センター
管理者 小川広美さん

休日の過ごし方、ストレス対処

休日は料理が好きな下の子供を誘って、外食に行くこともあり、美味しかった料理は「今度これ作って」とお願いする事もあります。ストレスに関しては、「今考えても仕方がない」と割り切れるタイプではありませんが、最近は食前酒にはまっているので、ちょっと上質のお酒とチーズを買って楽しむことでストレスを遠ざける時間を持っているのかな、と思います(*^-^*)

未来の自分

ケアマネの期間が長く、包括の経験を積まずに2年前に異動で管理者になったので、不足している部分も多いと思っています。立場的に、100人の前で話すことも、ファシリテーターをすることも求められるのですが、もっと自分の実力を上げて、伝えることができるだけの力をつけていきたいと思っています。